

授業力向上をめざして

－第2回全国模擬授業大会で考える－

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：模擬授業大会を開催したそうですね。

A：(林明夫：以下省略)第2回全国模擬授業大会を、栃木県民の日の協賛事業として6月12日(火)午前11時から午後2時までの3時間、足利市生涯学習センター(旧相生小学校)の4教室をお借りして、開倫塾の附属機関である開倫研究所の主催で開催させていただきました。

全国各地の学習塾や予備校、私立学校、公立学校から170名の先生方が参加、25名の先生方が模擬授業を行いました。

Q：なぜ、模擬授業大会を開いたのですか。

A：「教育の成果を決定する要因」は2つあり、「本人の自覚」と「先生の力量」であると考えます。学習当事者である「本人の自覚を促す」ことも、大切な「先生の力量」かも知れません。

「学力向上」に最も重要な場面である「授業」をどのように行うかが、ありとあらゆる先生の課題であります。教えることの専門家である先生の「授業力」向上のためには、他の先生の前で自らの授業を行って見てもらうことや他の先生方の授業を見て参考にすることが有用と考え、僭越とは思いましたが、模擬授業大会を開催させていただきました。授業の導入部分について、一人15分の持ち時間で行いました。

Q：開倫塾では、塾内でも模擬授業をしているのですか。

A：どこの学習塾や予備校でも行っているように、開倫塾でも入社後1年間は、その日に行う授業の導入部分を中心にした模擬授業を、先輩の先生方に見てもらっている先生が多いようです。(フィンランドでも教師教育の一環として模擬授業は盛んなようです。)

Q：なぜ、全国的な規模の模擬授業大会を行ったのですか。

A：「先生としての力量」向上のためには、同じ学習塾や予備校、学校の中だけで模擬授業を行うことに加え、時には他の団体の先生方の授業を見たり、全国の先生方の前で授業をする方が刺激になる場合も多いと考えたからです。模擬授業を通して、先生としての力量向上をめざしているのは自分だけではないと自覚すること、志(こころざし)を同じくする先生同志が集って、励まし合い、また腕を競い合うことも時には大切かと考えました。

模擬授業大会終了後、足利市田島町にある「ココファーム・ワイナリー」での「懇親研修会」や足利市月谷町にある「巖華園」での「宿泊研修会」で、授業力向上について議論をし交友を深めた先生方も数多くいらしたようです。

Q：授業の腕を上げるにはどうしたらよいとお考えですか。

A：①「シラバス」を書く能力 ②「メイン教材」を書く能力 ③「サブ教材」を書く能力 ④「テスト(毎日のテスト、単元テスト、定期テスト、実力テストなどありとあらゆるテスト)」を書く能力 ⑤児童・生徒の「授業評価」を授業に生かす能力などは欠かせません。

これに加え、最も大切なのは、児童・生徒の実情に合わせ、その日の「レッスン・プラン」を毎日書き続ける能力ではないかと私は考えます。

Q：「レッスン・プラン」とは、所謂(いわゆる)「教案」のことですか。

A：そうですね。熱心な先生は毎日、その日に行う授業について、実際にその日の授業を受ける児童・生徒たちの実情に合わせて「授業の設計」、「授業のデザイン」をし、「レッスン・プラン」を書き続けていると私は考えます。

授業中の児童・生徒の反応、発言なども「レッスン・プラン」の余白に書き込みながら、帰宅後、その日の授業の「リフレクション(自省、省察)」を行い「赤色」でまとめあげる。このような形で、授業ごとに「リフレクション」も含めた「レッスン・プラン」を書き続ける能力を、すべての先生は持つべきであると私は確信します。

模擬授業も、「レッスン・プラン」通りに行い、授業力の向上をめざすべきと考えます。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の先生方に考えていただきたいことはありますか。

A：お陰様で、開倫塾も、すべての先生が授業ごとに「レッスン・プラン」を書き、また新人の先生は少なくとも1年間は授業前に模擬授業を行うという企業としての文化ができています。

是非、先生方のところでも一人ひとりの先生方の授業力を向上させるために、「リフレクション」を含む「レッスン・プラン」を授業ごとに書き続け、必要な先生方には「模擬授業」を実行することをお話し合いになってはいかがかと思います。「リフレクション」を含めた「レッスン・プラン」を書き続けることは、先生としての力量の向上になりますし、そのような「レッスン・プラン」は、「先生として成長の記録」になります。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今回の模擬授業大会への参加者のお一人に、何年前に公立学校教員の社会体験研修生として、栃木県教育委員会から開倫塾に3か月間派遣された栃木県立足利女子高校の石川浩司先生がおられました。石川先生は、高校生への英語の授業をすべて英語で行い、英語で考えさせることをめざしておられます。模擬授業もすべて英語で行って下さいました。日本の英語教育の最大の問題は、英語教育を日本語で行っているところにあります。学習塾、予備校であっても英語の授業は石川先生のようにできるだけ英語で行った方がよく、まして私立学校でしたら英語の授業を英語で行うカリキュラムはいくらでも作成可能であります。

英語の教育を英語でできる先生を一人でも多く採用したり、研修を行って育成することも、学習塾、予備校、私立学校の経営者の社会的使命かも知れません。

皆様はどのようにお考えですか。

— 2007年6月17日記 —